

1. パドマブリッジ 現地視察報告

バングラデシュでは、世界銀行がパドマブリッジ建設プロジェクトへの融資計画を断念したことについて、社会に大きな落胆の声が広がっている。

この橋は、首都ダッカの南西約40km地点を流れているパドマ川に架けられる予定であり、全長6.15km、両端の取り付け道路が合計4kmとされている。架橋後は、バングラデシュ第3の都市:クルナ市と直結し、第2の港のモングラとも結ばれる。またバングラデシュの1/4の人が住んでいる南西地域が首都圏に組み込まれ、大幅な生活水準アップが見込まれる。さらにこの橋はアジアハイウェイ1号線上にあり、必要不可欠でもある。

9/05, 私はダッカ市内から往復7時間をかけて、このパドマブリッジ建設予定現場に行ってみた。パドマ川はたしかに大河であり、対岸はうっすらとしか見えなかった。中国の長江にたとえるならば、南京近辺の川幅に相当すると思われる。現在は、随時、カーフェリーや渡し船が往復していたが、片道で3時間ほどかかるということだった。船着き場から50mほどの地点に、パドマブリッジ建設事務所があったので、そこに入ってみたが、4~5人のバングラデシュ人が暇そうにしていただけで、事務らしきものはなにもしていない様子だった。チーフらしき人に話を聞いてみたが、新聞記事以上のことは聞き出せなかった。ただし彼は窓から外を指し示し、すでにこの周辺の土地は政府の手によってすべて買収済みで、着工待ちという状態だと話してくれた。なお、壁には完成予想図が掲げてあり、その橋が上下2層になっていたもので、聞いてみると、上が道路、下が鉄道、その他ガス輸送管、光ファイバー通信ケーブルなどを通す予定だという。それがこの橋が多目的ブリッジと呼ばれる意味であった。

道路際に、ハシナ首相の名前を刻み込んだパドマブリッジ建設計画のモニュメントがあった。ハシナ首相の出身地は対岸であり、そこが地盤であるという。この橋の着工がハシナ首相の任期中の悲願でもあるらしい。

パドマブリッジに関する最近の動き

8/27, 政府関係者は、「世界銀行(WB)はパドマブリッジプロジェクトに対する資金調達の見直しについて、いまだに肯定的な回答を示していない。パドマブリッジプロジェクトのため世界銀行からの1.2億ドルのローンについて未だ明るいニュースをもらっていない」と語った。また世界銀行の南アジア専務取締役の MN・パラザドは、キャンセルされたパドマブリッジプロジェクト融資の決定を見直すためにワシントンを経営するさまざまな貸し手を説得する使命を与えられた。世界銀行の条件により、スキャンダルが起きた当時情報通信大臣であったスエド・アブール・ホセインは引退、元ブリッジ書記官であったモシャラフ・ホセイン・ブイヤンが休暇をとっている。財務大臣 AMA ムヒスは、「世界銀行との話は今も続いている」と記者会見で改めて声明した。また「世界銀行からのブリッジプロジェクトに対する資金調達について、希望を持っているのか」という記者の質問について、ムヒスはコメントすることを拒否し、「我々は失われた尊厳を取り戻す助けになるので、世界銀行にブリッジプロジェクトの資金をサポートしてほしいだけである」と語った。

2. インフラ整備関係など

ダッカ・チッタゴンの天然ガス供給、改善

昨年10月、ガス・トランスミッション・カンパニー・リミテッド(GTCL)、ペトロバグラの会社は、外国の2社と国内6会社の併せて8つの契約を結び、天然ガスの供給を向上させるため、コンプレッサー・ステーションの取り付けとトランスミッションパイプの建設をすることになった。この作業が終われば、国のガス・グリッドへガスを送っているガス圧力が改善されるので、首都ダッカと港町チッタゴンへのガスの供給は著しく改善される。国のガス・グリッドのトランスミッション容量はGTCLが追加のガスを北部のガスフィールドから送る能力を増進させることになる。

アジア開発銀行、バングラデシュの鉄道に1.5億ドル融資

アジア開発銀行(ADB)は、バングラデシュの鉄道システムの容量、効率、安全を向上させるために、1.5億ドルを用意することになった。経済関係局(ERD)のシニア書記官イクバル・マハムッドと ADB のバングラデシュ・レジデント・ミッション・カンントリー・ディレクター、M.テレサ・コーは、8/28、ダッカでローンの契約に署名した。「この契約は第2回融資依頼のもとで ADB のバングラデシュ鉄道部門工場プロジェクトの実現の契約の一部である。バングラデシュは通常資本財源として融資を受け取ることになる。」とマハムッドは語った。「この資金調達でバングラデシュの鉄道はトンギ-バイラ



ブバザール間の 64 キロの複線化が完成することになり、ダルシャナ-イシュウルディ間の 11 の駅で信号システムが向上することになる」とマハムッドは続けた。

日本ビジネス代表团、バングラ訪問

日本のビジネス代表团は、二国間の貿易と観光を促進するために、ダッカ郊外の川沿いに《日本バングラデシュフレンドシップ経済ゾーン》をつくることに関心を示した。日本国際協力センターの理事長・松岡和久氏に率いられた 8 人の代表团は、8 / 30、ダッカの航空観光大臣・カンに計画書を提出し、「日本の投資家たちは、観光・航空そして健康管理部門に関心がある」と松岡氏は語った。「バングラデシュではいつでも日本の投資を歓迎する。このような投資はよく保護されるし、全ての援助を約束する」とカン氏は発言した。

ブータンとの交易の活性化のため、トランジット恒久化

バングラデシュは、現在ある臨時のブータンへのトランジットを恒久化し、この二国間での交易を拡大することを計画していると、8 / 30、通産省の関係者が語った。現在両国は、1984 年に署名された貿易とトランジットの議定書および技術協定書の下で協議を通してトランジットの契約を更新している。バングラデシュ商工会議所の顧問マンズール・アハメッドは、「バングラデシュは交易を増やすためにトランジット施設を復活させる。バングラデシュは陸地からでも海上からでもブータンにトランジットできるように計画している。ブータンは既にバングラデシュへのトランジットの目的でインドの陸地の利用に合意している」と語っている。

バングラデシュへの投資誘致

商務省大・GM カウダーは、「バングラデシュは国自体が自由主義的な投資法なので大型投資の可能性があると述べた。「しかも我々は 100%の外国所有権を提供している。バングラデシュは現在関税免除、輸出向けの企業に対しては資材の保税加工 OK、そして輸入設備の免税などさまざまな誘引を提供し、外国の投資家を引き付けている」と続けて語った。ダッカのカナダ・ハイコミッショナー・ヘザー・クルーデンは、「バングラデシュには十分な労働力があり、民間部門をより強力にするために彼らをトレーニングをする必要がある」と述べた。キャムチャムバングラデシュの会長マスド・ラハマンは、「投資の安全を保証し、民間部門の投資を奨励するために民間部門は権利政策と条例の設定が必要である」と語った。

3. 縫製工場関連ニュース

イード前のボーナス支払いで、大騒動は起こらず

国内に 5000 以上ある縫製工場の 90%は、ボーナス、オーバータイムを含めて賃金の支払いを、イード前に済ませ、労働者争議の可能性を和らげた。労働者のリーダーたちはこの動きを歓迎しているが、まだオーバータイムやボーナスを払わないままで、イードの休暇に入ると発表した工場もあるので緊張を解くことができていない。リーダーたちは関係ある工場主たちや政府に、未払い工場の労働者の不満を取り除くように何らかの方法をとるように要求した。ティカトゥリのミンモイ・ガメントでは、ボーナスやオーバータイムの支払いなしで、賃金のみをこの月の 15 日分だけ前払いして、イードの休日に入ると発表したのも、300 人にも及ぶ労働者たちが抗議運動をした。アシュリア、ジャムゴラの ND アパレルズでも、ボーナスや賃金前払いなしで休暇に入ったので労働者たちの間で緊張感が高まっている。その工場では 8 月 14 日にボーナスも含めて支払いをすると約束していたが、それぞれの労働者に 500 タカ支払っただけだった。

バングラデシュ衣料メーカーおよび輸出協会 (BGMEA) の会長シャフィウール・イスラム・モヒウッディンは、90%の工場が労働者たちの賃金、オーバータイムそして今月の最初の 15 日分の給料の前払いを済ませたと述べた。彼は本日まで船積み日を維持するために労働者の未払い分の支払いをすることができなかった残りの 10%の衣料メーカーも近いうちに同じように支払いを済ませるであろうと付け加えた。これらの工場の労働者への支払いを延期する決定は衣料工場主と労働者の間で話し合いが実を結ぶように努力しているので、労働争議の不安はないとモヒウッディンは語っている。

中国から縫製工場移転

中国の縫製工場がバングラデシュで衣服を作ろうと注目している。中国の衣料メーカーであるフォー・シーズンズ・ファッションリミテッドの中国人メーカー・ロサ・ダダは、「労働者の賃金値上げと全体的な生産コストの急激な値上げのため中国の工場はもはや競争力がなくなってしまった」と語った。ダダは中国の港町ミンボで約 20 年間衣料工場を動かしてきた。「中国の私の工場では労働者の賃金はここ数年毎年必ず値上がりしている。」と語り、彼女は最近バングラデシュを訪れ、ここでの機会を探している。「労働者の給料は一ヶ月 400 ドルから 500 ドルに値上がりしてしまった。もしこれが続けば私たちのビジネスは消えてしまう。バングラデシュでは衣料労働者の一ヶ月の平均 70 ドルから 100 ドルである。ここで生産できれば、コスト競争に勝てる」と続けた。彼女はすでにダッカに事務所を開いているが、これは自分自身の会社のために衣服をオーダーするためではなく、バングラデシュ発の中国オンライン小売人を得ようとしているのである。中国のメーカーは彼らの衣料をバングラデシュ発にすれば、値段はカテゴリーによって 10%から 15%下げることができ

ると語っている。

中国へのアパレル製品輸出拡大

中国への輸出が急速に伸びたため、「バングラデシュのアパレル製品に対して中国は“アメリカプラス”市場として拡大するだろう」とアパレル関係者たちは語っている。昨年の会計年度(2011-12)では中国へのアパレル輸出は一億ドルに上り、会計年度2010-11の5,281万ドルに比べて倍になっている。中国へのアパレル輸出は2009-10ではわずか1,895万ドルであった。国内の総額190億ドルのアパレル輸出先は57%がヨーロッパ連合で、23%はアメリカ、そして5%がカナダである。バングラデシュ衣料メーカーおよび輸出協会(BGMEA)の役員たちは、「中国市場の中で205の品物がゼロ関税である。安い労働者賃金と関税を利用してバングラデシュは容易に中国の下端(ローエンド)アイテムをつかむことができる」と語っている。

インドより安いバングラデシュの賃金

インドの隣国バングラデシュは、中国に続き世界の中でも二番目に大きなアパレル輸出国になったが、労働者が高い賃金を要求して争議を起こしている。2009年にはインドがアパレル輸出の第二位だったが、バングラデシュが著しい低賃金によってその地位を奪った。バングラデシュの縫製工子たちはトミー・フィルガー、カルバン・クレイン、そしてギャップなどという世界的なブランドの製品を作っている。しかも賃金は一ヶ月37ドルという世界でも最低の賃金である。インドでは州によって賃金は異なるが実質上バングラデシュよりは高い。技術のない労働者の最低賃金でも最近上がって、ハルヤナでは5,000ルピー(90ドル)、ニューデリーでは6,500ルピー近くになっている。(衣服を作る労働者を含め技術のある労働はもっと高い賃金を望む)。7月に起きた労働者抗議暴動により工場は閉鎖され、マネージャーが一人死亡したハルヤナにあるマルチ・スズキの工場の労働者の一部は最低賃金が一ヶ月7,000ルピー(126ドル)であった。

インド向け衣料製品の輸出拡大

インド向けの48種の生地の特税に伴い、バングラデシュからの衣料製品の輸出が拡大する傾向である。米ドルに対するインドルピーの切り下げにもかかわらず、バングラデシュの製品はインドの製品よりは安いとインドのバイヤーは話している。マラチのバイヤーはムンバイのハイ・ストリート・フェニックス、アリタ・ミレニウム・インオービット・モール、オペロニ・モール、インフィニティ・モールなどの有名なモールに商品を納めていると言った。「インド水準のバングラデシュ製Tシャツ、ジーンズ、ズボンなどは輸送費用を最低に見積もり、インド通貨の最近の22%切り下げを考慮してもインド国内から仕入れるより15から20%やすくなる」インド人バイヤーは語っている。パスチンバング県の県都であるコルカタ(元カルカッタ)にあるバイイングハウス、ガウリ・サンカール・ファッションの代表取締役のディパク・マヘスワリは、「バングラデシュの衣服はムンバイ、ニューデリー、コルカタ、チェンナイ、ベンガルル、チャンディガールなどのインドの大都会で膨大な需要がある」と言った。

バングラデシュジュートコーポレーション(BJMC)、苦境

国営のバングラデシュジュートコーポレーション(BJMC)は、輸出収益の下落により現在の収穫期において生ジュートを購入するのに、生ジュート輸出者と民間ジュート工場は資金難に苦しんでいる。BJMCは既に20億タカ相当のジュートを購入していると会長のメジャー・ジェネラルのフマユン・カレッドは言った。BJMCは現在運営中の21の国営工場を持っており、今の季節のために政府から30億タカの融資を求めている。生ジュート輸出者たちは外国のバイヤーの間で天然繊維の需要が減少したため起きた損失を訴えている。「我々は苦しい日々に入りました。我々は過去2シーズン高い値段でジュートを購入した。工場や生ジュートトレーダーの資金危機はジュートの収穫最盛期のときと重なり需要に影響を与えた」とバングラデシュジュート協会生ジュート輸出団体のマフズール・ホックは語った。

以上

